

30年4月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 4月1日～ 30年 4月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
仕入動向	国産材製材品	16.7	11.1	5.6
	外材製材品	0.0	0.0	△ 11.1
	構造用集成材	0.0	6.3	6.3
消費動向	国産材製材品	16.7	11.1	5.6
	外材製材品	5.6	5.6	0.0
	構造用集成材	6.3	6.3	6.3
在庫動向	国産材製材品	0.0	0.0	0.0
	外材製材品	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	構造用集成材	0.0	0.0	0.0

・国産材製材品の仕入動向は3カ月連続増加。外材製材品は4月、5月の横ばいから6月は減少に。構造用集成材は4月の横ばいから5月、6月は増加に。

・国産材製材品、構造用集成材の消費動向は3カ月連続増加。外材製材品は4月、5月の増加から6月は横ばいに。

・国産材製材品、構造用集成材の在庫動向は3カ月連続横ばい推移。外材製材品は4月の横ばいから5月、6月は減少に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/4月	5月	6月
受注	25.0	△ 6.3	0.0
加工	18.8	△ 6.3	0.0
受注残	△ 6.3	△ 6.3	0.0

・プレカット工場の受注、加工動向は4月の増加から5月は減少、6月は横ばいに。

・受注残は4月、5月の減少から6月は横ばいに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入はスギ不足感あり。米マツは値上げ続く。構造用集成材は実績なし。消費は春需のピークか？ 若干多めで推移している。在庫は平均的数量は確保。
- ・四月の仕入は極力しぼる。波のない消費動向になると予想される。外材製品の在庫と構造用集成材の在庫は、まだ減らしていきたいところ。
- ・仕入はハウスメーカーの受注量による。
- ・材料の値上がりは気になるが、仕入は通常通り行う予定。
- ・4月に入って仕事が増加。連休を挟んで年間で一、二の繁忙期に入るが、昨年より少し弱い感じ。在庫は原則持たない。

(受注動向)

- ・春本番。暖かく雪融けも急ピッチ。現場も順調に推移。
- ・当月は先月比で行くと受注は増えるが、翌月以降の受注は昨年比並くらいではないかと思われる。
- ・しばらく順調に仕事が入ってくる。